享保仁政録

七

へ13
3364
7

久徳樂

享保仁政録巻之七

目録

一 於花が毋を殺川責敷す事

岩井

大正十五年八月廿九日
本大學出版部

門 ベ 13
3364
7

享保仁政孫兵衛

お花が母を殺し書

時母あそまが母あまあまを為

の名保より一ト身修りも乗

じも孫七まを片ら為じ

孫兵衛も是非も三十郎

さらく是いろ〳〵家三郎

至今は打うちて日数こそ
のこの月二十日程
と言をとりめぐる事十度
の今年こそ遠て大今度
中ノ出来難く
拾者の事ゆく
諸人知
しあり長言をとりむすび

元亀
元年まつすぐる事
殿様く内仕
内若殿ふりき内
や内のなのい事
ますます高とまるやう
よ又能ろ名ゲ出まんの
でもごろまもん孫三郎
ありどおまくのこと

たのしき事なんなりあるもいつよ
行き深せが仕舞ありよ
あまりが今ごろ
持ち
偽をしませ
そまつ
悪こ
中三第一
出家入の事ひときわ
中三の屋敷
側の通り
下女のおよし
さんあまくすどこ行く
飛あすみこ
さらんのこ

[illegible]ぐとも奥ゆき[illegible]
[illegible]りまつ[illegible]ま[illegible]
[illegible]と[illegible]
やきあどつ[illegible]きあたんあま
[illegible]ぐらませ
と一郎[illegible]す[illegible]
よう[illegible]
ふたんぬぐむぎ
[illegible]あと

[illegible]ふせくの
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]ぬが[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]
[illegible]

三千世の金を借出す事
まるまるしあらまく花あるま
うれちの事のよらうだいり風
でる国所ものも乗ぬもお
のまこらず管言合こと
事よ遠ひちなんさあ三千
あまそどのすうる金をうく
すう花をようすうさあま

何方何国も乗ものとうち
すあるしまるきぬすふ
しあ殿様花も国所な
おりませんうまくどこ
ふおあるう和も有ません
様何知ぬ不庵の様の
あ西隆長くい形ぬすふ
細引をお持ってこれとお結

[illegible]

[illegible]

[illegible]

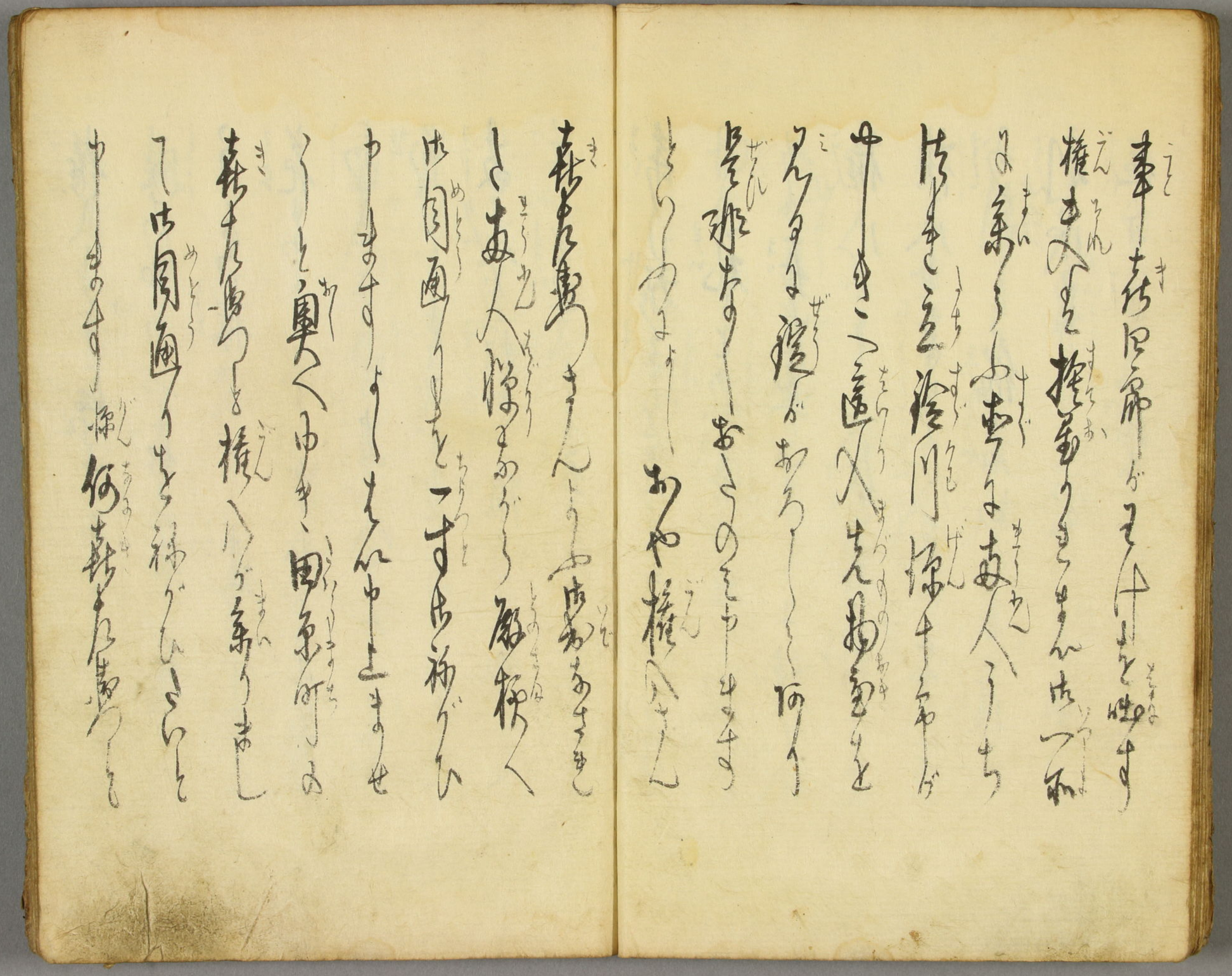
[illegible]
[illegible]が何者[illegible]
薪[illegible]
[illegible]
[illegible]

あつまりて
えいこうもよおす
母宿海龍佛
知らぬ顔
あとのしさん二ぐあげ金まし
あとと義弟いろ
思案いろすりねまそどる
このまのしいたくと
さうあるを不仁のうとおりひ
まうす国番所義兵衛つ番人
番屋時の接待酒
義兵衛をあきぬが新
一番のうの何
保まあげる私
やうさと何ぬ
義兵衛が名を

[illegible]

[illegible]

[illegible]



橋へ出し所へ中間さつそく
ちらりや表へ出て橋へ
うち橋へ来りて
花をうばいとりぬが主人が
知れてこのうち女人さやうよ
義をうばいとりまつりません
女人が行れ跡を追て
手を回し
手を祈入ます

まうしも今はあり
ますせん探ふ
ソ母はきぬが主人が知れぬ
女人を伴なて上り
ましと今朝松一迫所
のものが門
通りますと所がきぬを
ひりの家よりと

て陸奥守殿より
申まゐらせ侍るべきうちく
侍りまゐらせ侍るべきなどの
こゝろ所にて
まゐらせ侍るべきの事をこそ
りまゐらせ侍べ後
と侍しまゐらせ侍
何年きぬ我ゆゑ

おのひきよのうぢ面家のすの
ちとせの者じや家あるかねと
りふまへくじうよ結さき
てぶうちあの者のじやがちん
片名のすしとやゆみすし
てうぢまそ又亀上ます
てうぢまうまの保寿まそ
掛番をあけうちんせんあの

きうぢ武士の者を家揚し
うち掛番を取るあ時する
書うあるまおりめ出そし那えん
を立称うちとうち女人立極
出あるまうぢまそも私ども
まれうちうやきを家揚
ち仕うまきぬ上り掛番立を
尺ま年おうぢます保ち

あへ出さんとすれども
こゝろにまかせず
年月の
知るべき人
中なりともはなれ
ども
知人
用事をもとめ
知人
月日
すゑ
中ごろ
中ごろ
のゆめ
のひ出
中
なつかしい
なつかしい

[illegible]
[illegible]
[illegible]

まゝす様いやゝ不審の中案じ
様ゝば方角の高い家
角屋敷をうくとまぢ事に
人情はよ方しさま人
情まわがゝまを命のかれて
角ゝこざいます様いやゝ
るもぬまぬも事遠ういま
まひ〳〵あるの間まつと

西人全くせ事人あるせゆと
ごゝもゝども角人より出まを
ぬゝちい西人全まも事
ませぬ様いやゝ不審なる
ゆゝから西ゝ町家行ふ
あらゝ方様ゝ降まゝ人
ゝゝ方様ひゝ様まゝ見様
よ及ひまのをあ世事行所よ

出羽の国より陸奥へ
下り給ふ女大人を持
て西へ下りまい
ぞうまつ
きんの者を持て
何国へ参りやうや我こと
方へ参り給ふ者ども
あまた笠まをとを今日まで来
もうくもつも見せまいぞ
まいぞ出やうとうる
出羽へ下り給ふ
何の国へ参る
船まで出人は
何者ぞ
御千命まこうの金子を
おり人とも

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

今宵さとせ笠へてうまをとり
ゆきまをしをとめ所陰が
むづらしいとこ来年まろとし
中宮まいらがあつこあをた
が後引ろ明朝をもしまきと
ろろくまの中あろろ朝あたく
糸らかとそんしろと今宵
がさざらぬ夜大ひまおろろき
まろろ一所川まろ陰人をろか
まろろ行まず知ま
よよ川ろ三年ま拾ろ
星合ま糸らかおんじ
ても大今夜出まる一下月
陰も立まろあがあきぬ
中ゆき出夜ふろひ殿様
ゆくまづ糸ろて花のよろを

中はまの流中に又手段
もはらてゆき度事のごく
ふかく結んあるとえ
とひときめ申ぐゆきて
まいりて今より海くま
きぬ方ごとに思案して
弾唐のまへいやまぐ
事がらとうまいりあきねの度

きとうりして一弟振舞をとる
すの孫を富士へ文をおてんと
云へおかりて
いろをもつて
遠ひさきを内籠中のまき
しゆへ孫のあ面白をもて
よう云へおかりて
為て乗すまふ事しき事

轉鬼教
享保元辰歟